

病 院 新 聞

日本システム企画

「ビル・マンション総合展2002」に出展

技術セミナーで熊野社長が講演

日本システム企画(株) 東京都渋谷区笹塚二丁目二一(一)は、去る十一月十九日から二十二日まで東京・有明の東京ビッグサイトで開催された「ビル・マンション総合展2002」(主催・(株)日本能率協会)に業



界で唯一の配管更生装置NMRパイプテクターを出展、好評を博した。

また、二十一日には東京ホール内特設セミナー会場Dにおいて同社の熊野浩行社長が講師となり「21世紀の給水管更生技術について」の技術セミナーを開催した。

熊野社長は「従来の配管更生方法は、全配管を取替え工事するために、多大なコストがかかる。そこで、新技術を開発して錆を止

め、コスト削減が図れないかと十五年程前から延べ一五〇社を超える業者が技術開発を開始した。その各種新技術の中で、電子場処理装置、セラミックス(遠赤外線)装置、磁気装置は、どれも赤錆を流出する方法である。赤錆が流出すると、酸化が早くなり、これらの装置を導入した病院やホテルで漏水が早まったという赤錆流出を裏付ける事例が出ている。

ではどうすれば赤錆の流出が避けられかというところ、赤錆を還元して、黒錆化することで配管が更生される。今までの装置は、配管の錆の進行を遅くすることのできる装置であった。しかし、NMRパイプテクターは鉄の酸化還元メカニズムで赤錆を黒錆化する装置である。黒錆は全くさびない。錆を流さずに赤錆を還元することが大切であるが、今まではそれができなかった。従来はできなかったことがNMRパイプテク

ターはできるのです。

(NMR核磁気共鳴による水の活性化及び還元電位の発生について) 冷気状態の水を配管で作ると放電が起こる。しかし、小さな冷気状態を維持するのは今までのと難しい。それに対してNMRは、回転運動が続いている間は、六、七時間は連続放電で流れていく。そのため還元量は大きくなり、これはデータでわかる。これを応用すれば配管の更生装置ができるようになった。その唯一の装置がNMRパイプテクターである。ここで一番大事なことは、短期間で数値によって効果が実証でき、この装置で配管の更生が可能となったことである。従来の装置は改善データが出てこない上に、場合によっては配管劣度が進むが、NMR工法は、毎年新しい配管に戻っていくことがデータで明確

にわかる」とNMRパイプテクターの原理や利点をわかりやすく説明した。

その後、NMRパイプテクターの様々な実績事例として東京・広尾の日本赤十字社医療センター、北海道工業試験場、日本大学工学部をはじめ、成増ハウス等のマンションでの効果を数値を示しながら解説した。

【好評を博した日本システム企画の展示コーナー①と熊野社長による技術講演】